

「殺紙」 平安時代の製紙工程である截・煮・折・舂の作業を再現。木灰で煮熟、石板の上での徹底した叩解を経て、製紙された楮紙。主に古文書の修復、再現模写、書画に用いられます。54×97cm。
販売価格 5,000円(税抜)

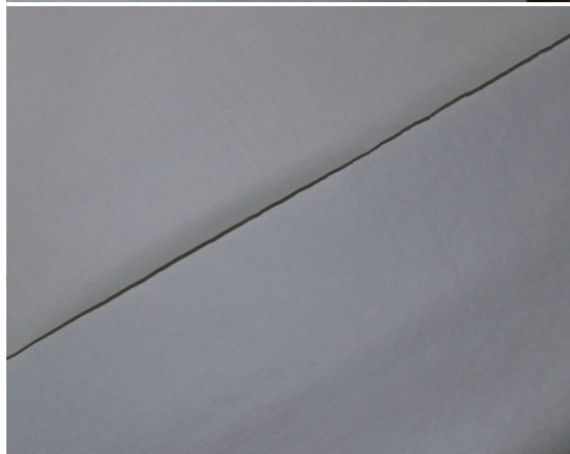
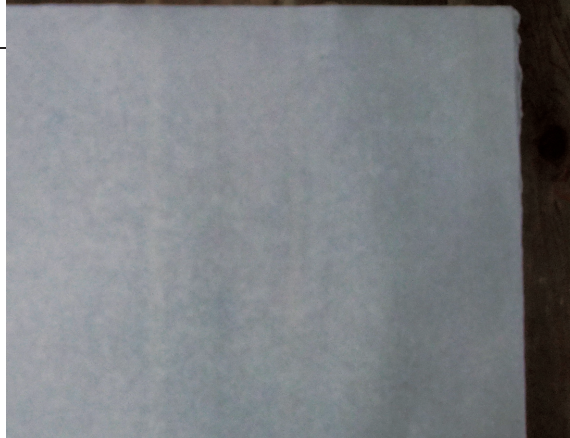
「斐紙」 白皮処理し、木灰にて煮熟。桜板の上で叩解。叩解後、長時間流水にてアク気を洗い出したことにより、柔らかく仕上がった厚手の雁皮紙。書画・版用紙。66×97cm。
販売価格 7,000円(税抜)

「透かし文様紙(麒麟)」 澁型を使って、白透かし技法によって文様を浮き立たせている。木灰煮・手打ちによる素朴な紙質を生かした楮紙。室内装飾や照明用。
66×97cm。
販売価格 12,000円(税抜)

林 伸次

1991年京都精華大学卒業。1996年黒谷和紙協同組合研修生となる。1998年独立、黒谷和紙協同組合賛助会員。2008年「京もの認定工芸士」認定。2009年黒谷和紙協同組合組合員。2012年から15年まで黒谷和紙協同組合理事。2006年から京都伝統工芸大学の和紙工芸科講師として後進の指導にあたっている。

〒629-1255
京都府綾部市戸奈瀬町寺ノ下20
TEL.0773-45-1232 FAX.0773-45-1232
Eメール hayashinofukuro@iris.eonet.ne.jp
HP www.eonet.ne.jp/~fukuropaper



黒谷の伝統の保持、継承、

そして発展

800年も昔に平家の末裔が始めたと伝わる黒谷和紙は、伝統的な和紙作りの技術を守り伝え京都府の無形文化財の指定を受けています。和紙は素朴な素材であるため、製紙者の資質が顕著に現れます。林は明治期以前の製紙すなわち機械が導入される以前の手漉ぎの技に魅かれ、原料の研究や紙作りの工程を追求しています。シンプルな道具を用いて、根気強い手作業を経て作り出される紙は、植物の繊維を損なわず強靱で、さまざまに分野の制作者・芸術家・表現者に愛用されています。

◆京もの認定工芸士とは…

京都の伝統工芸品(京もの)の製造に従事し、特に優れた技術をもった意欲ある若手職人に京都府知事から授与される称号。



京もの認定工芸士 第24号

林 伸次
はやし しんじ